



# Lina LOHAS通信



今月は、ロハスビートルのための月刊誌『ソトコト』についてお知らせしたいと思います。  
以前、(株)平凡出版社(現(株)マガジンハウス)で、雑誌「ブルータス」「クロワッサン」等の編集  
を担当していた小黑 一三(オグロ カズミ)氏が独立して、1999年に『ソトコト』を発刊。  
この「ソトコト」が主宰する“ロハスクラブ”(ロハス公式認定団体)のホームページも  
あります。詳しくはこちら <http://www.lohasclub.jp>

LOHAS ロハスは、以前からお伝えしているように、地球環境保護と健康な生活を最優先し、人類と地球が共存共栄できる持続可能なライフスタイルと、それを望む人たちの総称です。自分たちの幸せの向こうに、社会の幸せや地球環境への貢献が地続きでつながっています。そんなロハスを志向する人たちに向けて、様々な情報とサービスを提供しているのが、ソトコト主宰“ロハスクラブ”です。

雑誌『ソトコト』も、今年4月号から、サイズも大きく一新して掲載量も増え、益々魅力的になりました。地球の未来、日本の未来、現在どのような研究がされているのか、現実に地球上全ての国はどのように環境が壊れてきているのか・・・つい、普段は忘れていたこの地球という星のことを思いながら、現在の地球温暖化を防止するCO2排出量削減に、どう貢献していったらいいのか・・・それは、日々の暮らし方というか、私たちのライフスタイルが、無理や我慢でなく、社会や環境とつながりを持ちながら快適で自然と共存できる、そんな暮らしが持続可能な仕組みとして実現できるときっていいと思うのです。

ソトコトを読んでいますと、この地球というエネルギーとエコロジーのために、いろいろな企業が日夜研究していることもよく分かります。例えば、2004年の秋から約3年半、Lohas project では、東京電力・トヨタ自動車・松下グループの3社が、「エネルギー」「クルマ」「カデン」を通じて、人や社会や環境が、暮らしの中で有機的に“つながる”仕組みを提言し、2008年春、ひとつの成果が誕生。それは、ロハスをサポートする賃貸集合住宅『月光アパートメント』というもので、住空間というハードな面と、暮らし方というソフトな面を提案し、人にも社会にも環境にも優しい、ロハス的生活が機能するのか・・・ということを投げかけています。実際に住んでもらい、またそこから思考していくものようです。

また、埼玉県にある芝浦工業大学大宮キャンパスでは、環境に優しい「グリーンキャンパス」を、大学施設として2001年にいち早く取り入れ、環境マネジメントシステムの国際規格ISO1400の認証を取得しました。環境に関わる教育カリキュラムの充実、研究活動の推進などにより、環境改善に貢献する人材を育成しています。学長・柘植綾夫氏の言葉で、「大学の役割は、学生に知識を教えるのではなくて、考え方や学び方を教えること」とありました。その思想の基が、キャンパス内では自然・他生物との共生に力を注いでいるとのこと・・・。

大学時代 若いときの体験の中で、自然に多く触れる、海外体験なども、アフリカとか自然の多いところなどに行くのがよい。本当にこのようなお話を聞きますと、日本にも明るい未来があると感じますね。是非、大学でのよい人材育成がなされて、これからの日本に希望が持てる若者が、いっぱい社会に巣立って行って欲しいと思います。『ソトコト』4月号 参考



Lina Green  
TEL 054-205-0308

